

第 96 回メーデー長岡地区大会 戦後・被爆 80 年 次代につなぐ平和の特別決議

2025 年、戦後・被爆 80 年となる。

80 年前、第二次世界大戦により、世界で約 8 千万人が犠牲となった。人類史上、初めて広島に、そして長崎に投下された原子爆弾は計り知れない破壊と苦しみをもたらした。

今なお、戦禍の傷跡や痛みは癒えていない。私たちは、不戦の誓いのもと、働く仲間が連帯し、平和・人権・民主主義を守る歩みを進めている。

ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーなど、世界では戦争・紛争や人権侵害が起きている。なんら罪のない多くの人々は苦しみ、依然として核兵器の脅威は存在している。戦禍の記憶を風化させることなく、武力ではなく、対話と信頼の関係構築を通じ、戦争や核兵器のない世界、持続可能な世界の実現に向けて、私たちは、不断の努力を続けなければならない。

「長岡市は、昭和 20 年 8 月 1 日の大空襲により、一夜にして多くの尊い生命と財産を奪われた県内唯一の戦災都市である。

あの悪夢のような空襲から 39 年の歳月が流れた。この間、長岡市は、市民の血のにじむような努力によって戦災の復興をなし遂げ、今日の繁栄をもたらし、更に文化都市として大きく生まれ変わろうとしている。

私たちは、私たちの先達から受け継いだこの貴重な財産を、次の世代に引き継ぐ歴史的な使命を負っている。これを再び戦火にさらすことは、絶対に許されない。

世界に戦禍の絶え間なく、核戦争さえ危惧されるなかであって、私たちは、今こそ被災地の悲惨な体験を強く訴え、戦災都市長岡から平和の灯を広げていかなければならない。そして、それが、戦災の犠牲となったかたがたのみたまに報いる道であると信ずるものである。」

これは、1984 年に制定された長岡市非核平和都市宣言の一節である。

戦争は最大の人権侵害である。

今を生きる私たちの責任として、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代に継承していかなければならない。

戦後・被爆 80 年の今、世界がより良い^{あした}未来へと向かうための行動と平和の誓いを新たにし、次代につなぐ平和の決議とする。

2025 年 5 月 1 日
第 96 回メーデー長岡地区大会